

# 「これが授業と呼べるのか」「友達ゼロで夏休み」

## オンライン授業 憤る学生

コロナ禍でキャンパスの閉鎖が続く、大学生が悲鳴を上げている。講義の大半はオンライン、新入生は友人も作れず孤立……。ネット上では対面授業を求める声が渦巻くが、多くの大学は感染者の発生を恐れて再開できずにいる。朝日新聞と河合塾の共同調査では、多くの大学がオンライン授業の課題に、学生の学ぶ意欲などを挙げた。

### ひらく日本の大学

朝日新聞・河合塾共同調査

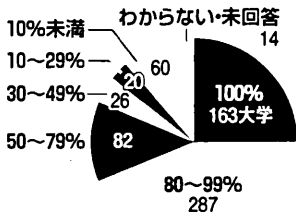
「先生からのフィードバックがなく、不安です」  
 慶応義塾大1年の女性(19)は話す。入学試験以来、一度もキャンパスに入っていない。録画された講義の動画を自宅で見て、小テストやレポートの課題をこなす。1日10時間パソコンに向き合う日もある。

サークルに入ったが、体の動かし方を確認するための簡単なツイートをスマートフォンでやりとりするだけ。街で楽しそうに話している高校生を見ると、うらやましくなる。「大学生の日常だけが壊されている気がします」

SNSを通じ、高校の時から憧れていたスポーツ系SNSを通じ、高校の時立大3年の女性(20)は「質

### 「#大学生の日常も大事だ」 ツイッターから抜粋し寄せられた主なつぶやき

- 後期もオンラインが決まった。もう疲れた。  
#大学生の日常も大事だ
- 1年生は受験日以来キャンパスに通えていない。大学以外が活動しているのに、不公平感は半端ない。  
#大学生の日常も大事だ
- 対面とオンラインでは授業の質が違うのに、同じ額の学費を支払っている。  
#大学生の日常も大事だ
- 大学が学生に帰省を禁止するのはひどすぎる。一人暮らしの部屋で、オンライン授業と孤独に耐えてきたのに親にも会えないなんて。  
#大学生の日常も大事だ



オンライン授業の割合

「ほとんど通信教育と変わらなくていいので、対面授業を再開してほしい」  
 別の首都圏の私立大2年の男性(19)も講義動画を見てレポートを送る日々。

多くの大学は感染拡大防止の観点から、対面授業を再開できずにいる。文部科学省が新型コロナウイルスへの感染を確認した大学生・短大生らは、8月2日までに690人、うち7月以降が532人と急増。大学生が絡むクラスター(感染者集団)も各地で確認されている。

学生の行動範囲の広さも対面再開のハードルになっている。都市部の大規模大学には、果をまたいで公共交通機関で通う学生が多。関西の私大職員は「クラスターの発生を考えれば、対面授業の再開には慎重にならざるを得ない」。

オンライン授業頼みの現状を教員はどうみるのか。早稲田大の教員は「サークルなどの課外活動がなく、大学と学生の接点はオンライン授業のみ。だからこそ、その費用対効果への評価が厳しくなっている」。

## 感染懸念 対面に慎重 大学側

明治大の教員は「質を上げるためにはシステムの改修が必要だが、いずれは元の対面授業中心に戻る」とみているので、本格的な投資はしにくい大学が多いのではないかと語る。

萩生田光一文相相は4日の閣議後会見で、「大学だけが完全にキャンパスを閉じているのはいかげなものか。後期はオンラインと対面のハイブリッドの授業をやってみようと思うのが普通の学校の判断ではないかと期待していると述べた。

## メンタルケアも課題

オンライン授業が続き、学生とのコミュニケーションが希薄になっていることには、大学側も課題を感じている。6、7月に朝日新聞と河合塾が共同で実施した「ひらく 日本の大学」緊急調査でも、この点を懸念する回答が相次いだ。

調査は国公私立の768大学を対象で、85%が回答。「全授業の何割をオンラインにしているか」という問いの回答では、8割以上をオンライン化している大学が7割にのぼる。

オンライン授業の課題として問題視する意見が目立っていたのは「学生の通信環境、ICT(情報通信技術)スキル」や「学生の学習意欲・メンタルケア」などだ。宮城大は「孤立している学生の把握とメンタルケアの対応」を挙げた。「講義を何度も見直すことで理解度があがるという学生がいる一方、授業進度についていけない学生への学習支援が課題」(福岡工業大)との回答もあった。

東北大が「眼精疲労、視力低下、頭痛、肩こりなど学生の身体的疲労」を挙げるとともに、長時間の端末視聴による心身への影響も懸念されている。

オンライン授業の課題として問題視する意見が目立っていたのは「学生の通信環境」(阿部朋美、佐藤剛志、土屋亮)